

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590200084		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	グループホーム 角館		
所在地	秋田県仙北市角館町勝楽122-1		
自己評価作成日	平成30年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成30年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症があってもあたり前の生活を送れるお手伝いをめざします」という理念の下で「レッツ・チャレンジ」という事業所目標を職員全員で話し合い決めている。認知症の入居者様が、あたり前の生活を送ることが出来るように、「生きがいを感じる暮らしの継続」や、「健康的な身体づくりの継続」、そのための「最善の介護の提供」を実践し、様々なことにチャレンジしていきたいという職員の想いが込められている。入居者様と共に過ごし、共に笑い、お互いが支えあう関係を築きながら、入居者様一人ひとりのあたり前の生活、望む生活を実現させていきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を踏まえた目標をケアのポイントとして掲げ、利用者一人ひとりのより良い生活のための課題について検討しながら理念の実践に向けて努力しています。実際にさまざまな工夫や配慮がみられ、状態を把握した健康管理、研修で学んだことを活かして災害対策としても取り入れる等、きめ細かな支援が行われています。アセスメントの重要性を認識し、独自の様式を作成して記録の仕方も必要に応じて見直し、利用者の支援に繋げていけるよう取り組んでおり、職員の意識向上にも繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で事業所理念を策定し、認知症を理解しつつ住み慣れた地域で安心して生活を継続することができるよう努めている。常に理念を意識できるよう事業所内に掲示し、職員全員で共有している。	目標を設定し、一人ひとりの要望を聞き取り、状態や性格を理解してその思いを受け止め理念の実践に向けて支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェの開催、イベントへの参加など、地域の方と接する機会を設けている。地域の方が折り紙を教えてください、野菜を届けてくださったり、子供達が遊びに来てくれたりと、日常的に交流している。	町内会を通じてホームの行事を案内し、町内の合同災害訓練に地域の一員として参加し、認知症カフェでは利用者がコーヒーのサービスを担当しています。子ども達とも身近な存在として交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症カフェを開催し、地域の方向けに認知症に関する寸劇や認知症サポーター養成講座を行っている。また、職員は認知症キャラバンメイトとして、事業所以外の地域でも活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の様子や行事、参加した研修内容を報告する中で、認知症の方の対応方法に関する相談やご意見等をいただいている。それらの意見を参考にして、事業所内で研修を行い、サービスの向上に努めている。	会議はホームの取り組みを参加者に理解していただく機会となっています。会議を通じて協力を得たり、出された意見をサービスの向上に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に事業所の現状を伝えたり、訪問した際に直面しているサービスの課題解決に向けて相談したりしながら、情報を共有し、連携しながら入居者様の生活を支えている。	運営推進会議で意見を出していただいている他、生活保護受給者の相談に対応していただき、情報交換しながら協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に数回は社内研修や事業所内研修を行い、身体拘束の正しい理解に努めている。夜間の防犯目的以外は玄関を開放しており、行動制限を含めた身体拘束ゼロのケアを目指し実践している。	身体拘束の内容と弊害を認識し、スピーチロックによる拘束についても積極的に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に数回は社内研修や事業所内研修を行い、虐待防止の理解を深めている。「害を及ぼさない」は介護の基本線を守るための倫理であることも学び、「言葉遣い」から始まる虐待にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外の研修への参加はできていない。制度の内容を理解していなければ、関係者に対して情報提供もできないため、今後は知識を得る機会を持ち、理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等の説明を行う時には、書面を見て頂きながら説明し、ご理解いただき、同意を得よう努めている。改定時も、書面や口頭で説明し、同意をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、苦情や相談窓口を記載し、外部への相談も可能であることを伝えられている。また、ご意見等の多くは面会時に直接お話いただき、運営にも反映させている。	遠方に住む家族とは電話でのやり取りが多いことから関わり方が難しいと感じていますが、面会に来られる方も含めて会話の中で要望等が引き出せるように努め、出された意見を反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、事業所内の職員会議等で意見や提案を聞き、毎月開催される管理会議で報告している。代表者は、各事業所からの報告を受け、運営に反映させている。	課題が発生した場合は全員で検討する体制があり、管理者は管理会議以外にも代表に報告、相談していることから代表は職員の意見や提案を聞くことができ、反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための受講料や参加費を補助していただけることは、職員のスキルアップや向上心に繋がっている。管理者や職員と話をする機会をもうけ、職場環境の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に法人内外の研修への参加を奨励しており、年間研修計画による研修や対象者を絞った研修も行っている。法人内に教育研修委員会を組織し、新人研修等を再検討しているところである。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社長が会長である地域密着型介護事業者連絡会に加盟し、研修等で学ぶ機会を持ち、交流しながら関係作りも行っている。他事業所の良い取り組みは事業所内でも取り入れ、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様と会い、良い雰囲気作りを行いながら様々なお話を伺っている。その中で心配なことなどを聞き取るように努め、サービス開始時のケアプランにも反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と会い、これまでの状況や困っていること、不安なことを話していただいている。また、ご本人様が同席していない場所や電話などでお話を伺うようにもしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できること」を把握し「している」ことを増やすことができるように働きかけている。日常生活では人生の先輩として教えていただくことも多く、自尊心を保てる関わり方を心掛けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の状況報告書やホーム便りでご本人様の状況を伝え、困りごとがあった際は相談し、一緒に解決できるよう働きかけている。また、ご家族様にしかできない関わりを大切にされた支援に努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もともと住んでいた同じ町内の方や近隣の方、同じサークルにいた方、信仰する宗教の友人の方の面会があり、ゆっくりと話ができるよう配慮し、お帰りの際には、また会いに来ていただきたいことを伝えている。	知人の来訪を積極的に受け入れ、お盆の際の帰宅や外泊、兄弟の集まりにも出かけています。家族や友人との関係を大切にし、利用者の思いを制限したくない職員の気持ちに家族が理解を示し、協力が得られています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格や、他者との関わり方を把握し、支援している。皆価値観や考え方が違う、ということを忘れず、一人の時間も大切にしつつ、共同生活の良さも感じて頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	担当のケアマネージャーから最近の様子を聞いて情報交換をしたり、ご家族様から連絡をいただき、体調の変化等があった際の対応方法を伝えたりして、相談や支援に努め、フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から出た希望等は、できる限り沿えるよう職員間で話し合ったり、自分での意思表示が難しい場合でも、家族からの情報提供をもとに意向の把握に努めたりしながら、ケアプランにも反映させている。	日頃のケアの中で思いを汲み取って職員間で共有し、本人本位の生活になるよう取り組んでいます。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者会議の中で情報を共有し、できる限り意向に沿った暮らしが継続できるように努めながら、時に変化するご本人様の意向を把握する為、ご家族様の面会時には小さな事でもお聞きするようにしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う言動等があった際は記録に残し、職員間で情報を共有している。 ご本人様の持っている「できる力」を存分に発揮していただくため、現状を把握し、お声掛けを工夫しながら支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向を確認し、医療職などからも意見をもらい作成している。 アセスメントとモニタリング繰り返しながら、要望や変化に応じて臨機応変に職員全員で見直しを行っている。	日常の記録を基に担当職員はじめ全職員が関わって1人ひとりの状態に合わせた介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分の摂取量、排泄状況、その日の様子や言動等を記録し、申し送りでも情報を共有している。また、評価や今後の課題を導くために記録を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の企画に参加して顔見知りになった方がボランティアで折り紙を教えて下さっている。また、地域包括支援センター協働での認知症カフェを開催し、入居者様も参加されてコーヒーを淹れて下さっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人様やご家族様の希望に沿ったかかりつけ医を選んでいただいている。薬に関する疑問は、かかりつけ薬局からアドバイスをいただいたり、歯科に関して現在、通院中の方はいないが、口腔ケアに関する研修の開催などを通して、繋がりを大切にした連携を図っている。	利用者個々の希望に沿って対応しており、法人の看護師とも連携して支援しています。協力歯科医の研修に参加し、研修内容を活かした支援に繋がっています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の週1回の訪問時に、状態に変化のある入居者様の報告や相談を行っている。その他、急な状態悪化時や受診の必要性に関しても、24時間対応していただく体制があり、早期の対応に努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスムーズに治療が受けられるよう書面にて情報提供を行い、病院職員と連携しながら退院までの支援を行っている。また、「医療と介護のつどい」など連携を強化するための研修会にも参加し、関係づくりを行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針(看取りの指針含む)」の説明を行い、同意をいただいている。重度化が進んだ段階で再度話し合い、ご本人様やご家族様の意向を尊重できるよう、事業所としてできる支援体制をとっている。	現在対象者はありませんが、重度化した場合は指針に則って対応することを職員の共通認識としており、それに向けた研修も段階を踏んで実施し、体制を整えていく予定です。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員が消防署員による普通救命講習に参加している。また、看護師による急変時の対応や異常の早期発見のポイントについての研修を行い、すぐに動ける実践力を身に付けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震の防災訓練を年2回実施しており、消火器や発電機の使い方、避難誘導の仕方を職員全員が身につけている。また、10月には地域の方と合同で、避難訓練と炊き出しを行っている。	夜間想定を含めた訓練を実施しており、シートを使用した避難訓練も体験しています。敷地内の法人他施設と連携して災害対策をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格や気分を把握して、特に排泄に関する誘導等の際には、言葉を選びさりげなく対応するように心掛けている。また、プライバシーに関する研修も行い、個人情報の保護と同様に理解を深めている。	言葉遣いに気をつけながら接しており、良い関係が構築されています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から要望を引き出し、外出や外食を企画し、可能な限り実現させている。普段から飲み物やレクリエーションなど、選択できることは毎日行ってもらっている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中で、ある程度の目安となる食事時間や体操の時間、消灯時間は決めているが、無理強いせず、一人一人の入居者様のペースやその日の気分に合わせた支援を行っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類は気候に合わせて選んでもらい、衣類の買い物に出かけた時は、自分で見て選んで購入してもらっている。散髪も、自分で要望を伝えてもらうなど、その人らしく生活する為の支援を行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のできる力を活かして、調理の下処理や調理、盛付け、後片付けなどを一緒に行い、職員と一緒に食べている。また、旬の食べ物を取り入れ、季節を感じるができるようにしている。	調理の過程を進んで手伝ってくれる方や畑づくりができる方が職員と一緒に作業をしています。利用者の力を活かして一緒におやつをつくらったり、敷地内でお茶をいただいたりして楽しむための場面づくりをしています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量が把握しやすいように、表を作成し記録している。咀嚼や嚥下状態に合わせて、刻んだり、トロミ剤を使用して、自分で、おいしく、食べやすいように工夫している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアのお声掛けや介助を行っているが、ご自分でできる入居者様の口腔内の把握が不十分である。義歯は、朝食後に外してもらい、洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の間隔を把握し、お声掛けして、トイレでの排泄を支援している。「これがあれば安心だ」「ゆっくり眠れる」とパット等を使用する入居者様もおり、ご本人様の気持ちに沿った支援を行っている。	排泄状態をチェックし、本人に適した排泄用品を検討する等、随時支援方法について話し合っており対応しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	無理なく排便できるよう、朝に冷たい牛乳を提供し、オリゴ糖を料理に使い、腹部をひねる体操やマッサージを行っている。また、必要に応じて看護師や主治医に相談し、指示を仰ぐようにしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤や湯温、一番風呂など、可能な限り入居者様の希望に沿うようにしている。こだわりを強く持たない入居者様には、疲労感や体調を見極め、お声掛けを行っている。	お湯をひとり毎に入れ換え、ゆっくり入浴を楽しんでいただいています。拒否のある方に対しては時間をずらしたり職員を代える等して入浴を促し、清拭で対応することもあります。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースや生活習慣、体調、希望に合わせて、休息や就寝できるよう支援している。温度や湿度の確認、寝具の好み、時に足浴を行い気持ちよく休める支援をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧表を作成し、薬の働きや副作用をまとめ、薬についての理解に努めている。処方内容変更後の副作用や状態変化を注意深く観察し、看護師やかかりつけ薬局に報告や相談をしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りが得意な方、毎日自分が淹れたコーヒーを飲みたい方、納豆が好きの方、ハサミを上手く使える方、手先が器用ではないが指導して下さる方など、一人一人の役割や習慣を活かし、できる事を支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には外で体操したり、昼食や茶話会を行い、外出レクリエーションで外に出かける機会を設けている。お正月やお盆には外出や外泊される方もおり、その時にはご家族様に、お薬の説明や日頃の様子などを伝え、安心して出掛けられるようにしている。	カラオケに行きたい、夜桜が観たいとその時々利用者の希望に沿い、可能な限り支援しています。ドライブ等にも出かけていますが、ホームの畑や日向ぼっこできる場所があり、外気浴できる機会もつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年に数回、買い物レクリエーションに出掛けている。 財布にお金を入れて渡し、入居者様自身が自分で計算しながら商品を選んで購入し、支払いを行うことを支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一名の方が携帯電話を持っており、自分で操作して電話をかけている。 ご家族様からの電話を取り次いだり、電話をかけたいという要望があれば、事業所の電話を利用いただいている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの表示を目線の位置にしたり、トイレの不快な臭いを防ぐため、消臭剤を使用したりドアを閉めるなどの配慮をしている。また、ホールや玄関には入居者様が活かした季節のお花を置いたり、温度湿度計を設置して、心地良い空間作りに努めている。	展示物や季節の花で季節感を取り入れています。浴室及び脱衣室に暖房を設備し、冬場のヒートショック対策をしています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は、入居者様の相性に応じた席にしており、テーブル席に背を向けてソファを配置し、目線を外す工夫をしている。また、廊下の陽の当たる所に椅子を置き、外を眺めながら過ごせる環境を作っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由にしており、テレビや椅子、タンスなどが持ち込まれている。家族や配偶者の写真、使い慣れた目覚まし時計、小物類など、ご本人様の意向を確認しながら、居心地の良い居室を作っている。	利用者の状態に合わせて快適な環境となるよう温度、湿度を調整し、メントオイルを含ませたタオルを掛けて乾燥対策と健康管理をしています。窓辺の棚下の利用者が使いやすい位置に洋服掛けが造られています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ヒヤリハットや事故報告書を活用することで日常生活上のリスクを減らし、自分の力で安全に生活できることに繋がっている。 居室やトイレの場所は目線に合わせた目印をつけ、分かりやすいようにしている。		